

五期俳句会第百六十二回二月二日

久貝さんがご出席未だ完治とは行かないが、なんとか書けるので、タクシーでお出まし。山本健太郎さんも様子を見に来てくれて、賑やかに始まる。

春告げる紅蓮の炎山焦がす

塩田亘子

山茶花や赤はなやかにこぼれ継ぐ

今井由紀子

不自由や左手スプーン雑煮喰み

久貝貞子

なら町や侘び寂びにある木守柿

塩田亘子

一点の傷なき落葉しおりにと

松浦武子

仁王像冬横着の吾を睨むあ

今井由紀子

妻留守の水餅水の澄みてをり

浅香さとみ

悠久を誇る金閣銀世界

塩田亘子

咲初むる天満宮の白き梅

今井由紀子

易断の凶払わんと破魔矢買ふ

浅香さとみ

有難き嫁の存在年越せり

久貝貞子

友来たり懐紙に咲ける白椿

今井由紀子

古代史の春呼びおこす飛鳥墳

塩田亘子

蹲つくばいに薄氷うすらいみえる京の庭

松浦武子

寒見舞引つ越しせし事知らせをり

浅香さとみ

ゆずり葉にのせた供物や辻地蔵

今井由紀子

薫囀ひ中に密やか寒牡丹

松浦武子

風花の舞ひちる能登路遠き日や

塩田亘子

気安く休む人がいるけれど、私は絶対休めない、他へ行きたいときも有るけどそちらを変更して貰って出席している。哀しい。